



コンクリートがしかれているが、すぐ脇の土は柔らかく、踏んでしまふと下の水路に落ちる危険があるため注意が必要である。写真のすぐ近くにも誰かが滑ったであろう土の跡があった。



ソバが白い花をつけていた。



水田の側に太陽光パネルが設置されていた。



子供たちが野球をする公園があった。



地図には果樹園の記号が書かれていたが、実際は水田として利用されていた。昔はぶどうが栽培されていたそう。水田の中に白鷺がいた。



### 三日月神社

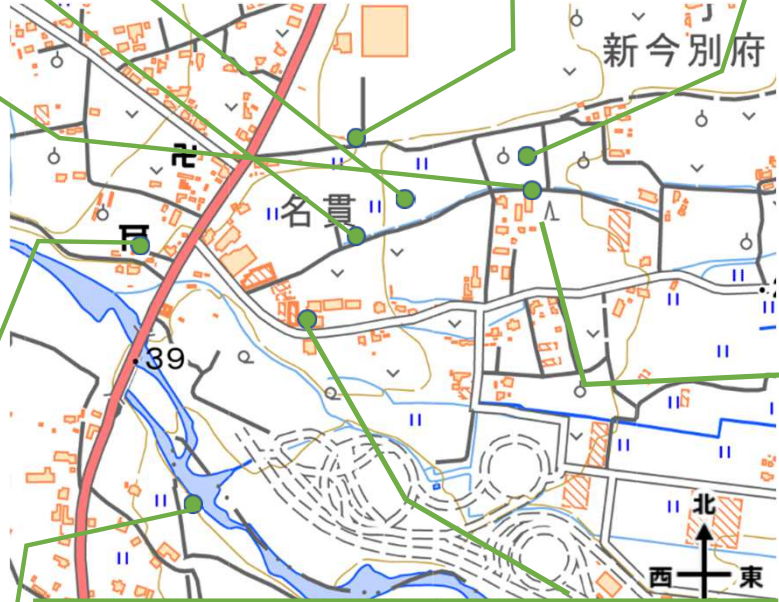
名貫川（ナヌキガワ）から出てきた三日月模様の岩を祀っている神社。現在は草に覆われていて見ることが出来ないが、散歩の際に毎回お参りをしているという方もいた。



### 名貫川 ナヌキガワ

江戸時代、参勤交代の殿様の通り道だったが、名貫川では駕籠舁き（かごかき）がよく滑るため危険な場所だった。ある時その川から三日月模様の入った岩が出てきたため、神社をたて、氏神様として祀っているという。

名貫の方が口をそろえて言うくらい、河童の伝説が有名である。今まで中止になっていた“河童祭り”が近年復活したり日本一の河童巻きを作ったり河童を祭っている。また、名貫では「かっぱ」ではなく「ひょうすんぼ」と言う。



向かいの家で庭仕事をしていた方に伺ったお話によると、道路を挟んで南側は今より2mほど土地が低く、水が湧き出ていたという。今は基盤整備され、水田や果樹園として利用されている。



### 有明産業株式会社

元々はビール用の木箱を作っていた会社である。現在はウイスキーや焼酎、都農ワイン用の洋樽が作られており、海外へも出荷されている。ほとんど手作業で、1ヶ月に約300本が作られている。



古くなった樽を工場に持ち込み、中を削ってもう一度焼き直し、再利用している。この作業をひとつの工場で行っているのは日本ではここだけだそう。



←右から桜、栗、ミズナラ、の木を使用した樽で熟成された酒。入れる樽によって酒の味や香りが全く違うという。



名貫地区は昔、水見（スイケン）地区と呼ばれていた。

### 感想

今回のエクスカージョンでは、実際に都農町で生活をされている人々の話を聞くことで、様々なことを知ることができた。話を聞いていく中で、その地域の特性や、歴史、自然などについて学ぶことができた。

今回は主に名貫地域について調査した。三日月神社の名前の由来と名貫川が関係していたことや、毎年お祭りが行われていることなど、その地域に住んでいる人々しか知らないような情報を得ることで、理解を深めることができた。また、有明産業では、樽を製造する工程を実際に体験させてもらい、地域の現状を知ることができた。今回のエクスカージョンを通して、インターネットなどで情報を集めるのではなく、実際に

現地に出ることで得られることはとても大きいと感じた。これからも実際に、現地の人々に話を聞く機会があると思うが、その時に得た情報はとても貴重なものだと思うので、しっかりと取り組んでいきたい。



作成：Cグループ17班

